資料１-２

令和７年　月　日

【提出先】

地域金融機関向けファイナンスド・エミッション算定等講義事務局

【提出先メールアドレス】(有限責任監査法人トーマツ 矢吹・本橋宛)

shotaro.yabuki@tohmatsu.co.jp　,　satoshi.motohashi@tohmatsu.co.jp

**地域金融機関向けファイナンスド・エミッション算定等講義**
**応募申請書**

地域金融機関向けファイナンスド・エミッション算定等講義について、公募要領の記載内容に同意のうえ、下記のとおり応募します。

【受講対象者情報】

|  |  |
| --- | --- |
| 貴社名 |  |
| 所属部署名 |  |
| 役職 |  |
| ふりがな氏名 |  |
|  |
| E-mail |  |
| 電話番号 |  |
| 第１回から第３回のすべての講義を受講し、事前・事後課題に取り組むことに同意します。 | ☐ |

※受講対象者は１金融機関あたり１名までとします。

※受講対象者は気候関連情報開示に関する実務を担う部署（経営企画、リスク管理、IR、その他サステナブル関連部署等）において、実務を担当する役職員（管理職・担当者） を対象とします。

【応募動機等】

・本講義への応募動機や意欲、期待する成果についてご記載ください。

|  |  |
| --- | --- |
| 応募動機、期待成果（200字以内） |  |

【GHG算定に係る取組】

・貴社で取り組まれているGHG排出量の算定に係る状況について以下の選択肢よりご回答ください。

|  |
| --- |
| ※該当する数字を右に記入ください。 |
| １．算定の状況 | 1. 算定している（算定に着手している場合を含む）
2. 算定を検討中
3. 算定は検討していない
4. その他（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）
 |  |
| ２．算定スコープ | 【上記１．で①または②を選択した場合、算定対象とするスコープをすべて回答ください】1. スコープ１
2. スコープ２
3. スコープ３
 |  |
| ３．対象事業所 | 【上記１．で①または②を選択した場合、算定対象とする事業所の範囲をすべて回答ください】1. 本店（システムセンター等を含む）
2. 支店（支店、出張所等の名称は問わない）
3. 連結子会社・関連会社
 |  |
| ４．課題 | 【GHG算定に係る課題について回答ください（複数選択可）】1. 自機関内で算定の必要性について理解を得ることが難しい
2. 算定の方法論に係る専門知識・人材が不足している
3. 分析対象アセットクラス・セクターの決定が難しい
4. 投融資先の排出量データの収集が難しい
5. 投融資先の財務・活動量データの収集が難しい
6. 算定結果の第三者検証の体制構築が難しい
7. その他（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）
 |  |

【ファイナンスド・エミッション算定に係る取組】

・貴社で取り組まれている投融資ポートフォリオの排出量（ファイナンスド・エミッション）の算定状況について、以下の選択肢よりご回答ください。

|  |
| --- |
| ※該当する数字を右に記入ください |
| 1. ファイナンスド・エミッションを算定している
2. ファイナンスド・エミッションを算定していない
 |  |

【投融資先へのエンゲージメントに係る取組】

・貴社で取り組まれている投融資先への脱炭素に係る対話・エンゲージメント・支援の状況について、以下の選択肢よりご回答ください。

|  |
| --- |
| ※該当する数字を右に記入ください。 |
| １．投資融先への対話・エンゲージメント・支援の状況 | 【取組状況について、該当するもの全ての記入をお願いします】1. ESG関連の投融資目標を設定している
2. 投融資先の持続可能な取組を促進する金融商品を提供している
3. 投融資先のGHG算定を支援している
4. 投融資先への勉強会など啓蒙活動を実施している
5. 脱炭素やESGをテーマにした商談会やマッチングを実施している
6. 地域のステークホルダーと脱炭素に向けた意見交換を行っている
7. 投融資先への持続可能な取組や目標設定に対するコンサルティングを実施している
8. 投融資先の脱炭素の取り組みに関するモニタリングを実施している
9. 必要性は認識しているが取り組めていない
10. 自機関内で話題に上がっていない
11. その他（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）
 |  |
| ２．対話・エンゲージメント・支援における課題 | 【取組における課題について、該当するもの全ての記入をお願いします】1. 自機関内で脱炭素に関するエンゲージメントの必要性が理解されていない
2. 脱炭素を促進する体制や金融商品が整っていない
3. 脱炭素に関する専門性を有する人材等が不足しており、エンゲージメントの方法が整理されていない
4. 投融資先で脱炭素の必要性や理解が高まらない
5. 国や自治体の支援に係る情報が不足している
6. 国や自治体との連携が十分に図られていない
7. その他（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）
 |  |

以降の項目への回答は任意とします。

【各テーマに対する要望】

・本講義の各テーマについて、特に取り上げて欲しい内容や課題等がありましたらご記載ください。

|  |  |
| --- | --- |
| 第1回：　脱炭素化に向けた動向と投融資先企業の脱炭素経営の必要性を「知る」 | （100字以内） |
| 第2回：　投融資先企業のGHG排出量を「測る」 | （100字以内） |
| 第3回：　投融資先企業にGHGを「削減」してもらう | （100字以内） |

【その他】

・本講義の受講に関して、事務局に考慮して欲しいこと等がございましたらご記載ください。

・また、講義で取り上げて欲しいテーマがございましたらご記載ください。

|  |  |
| --- | --- |
| その他 |  |

以　上

資料1-2

令和７年○○月××日

【提出先】

地域金融機関向けファイナンスド・エミッション算定等講義事務局（有限責任監査法人トーマツ）　矢吹・本橋宛

【提出先メールアドレス】

shotaro.yabuki@tohmatsu.co.jp　,　satoshi.motohashi@tohmatsu.co.jp

**地域金融機関向けファイナンスド・エミッション算定等講義**
**応募申請書**

**＜記入例＞**

地域金融機関向けファイナンスド・エミッション算定等講義について、公募要領の記載内容に同意のうえ、下記のとおり応募します。

【受講対象者情報】

|  |  |
| --- | --- |
| 貴社名 |  |
| 所属部署名 |  |
| 役職 |  |
| ふりがな氏名 |  |
|  |
| E-mail |  |
| 電話番号 |  |
| 第１回から第３回のすべての講義を受講し、事前・事後課題に取り組むことに同意します。 | ☐ |

※受講対象者は１金融機関あたり１名までとします。

※受講対象者は気候関連情報開示に関する実務を担う部署（経営企画、リスク管理、IR、その他サステナブル関連部署等）において、実務を担当する役職員（管理職・担当者） を対象とします。

【応募動機等】

・本講義への応募動機や意欲、期待する成果についてご記載ください。

|  |  |
| --- | --- |
| 応募動機、期待成果（200字以内） | ＜例＞地域の企業の脱炭素化を進めるにあたり、投融資ポートフォリオのカーボンリスクについて把握し、優先順位をつけて取り組むため |

【GHG算定に係る取組】

・貴社で取り組まれているGHG排出量の算定に係る状況について、以下の選択肢よりご回答ください。

|  |
| --- |
| ※該当する数字を右に記入ください。 |
| １．算定の状況 | 1. 算定している（算定に着手している場合を含む）
2. 算定を検討中
3. 算定は検討していない
4. その他（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）
 |  |
| ２．算定スコープ | 【上記１．で①または②を選択した場合、算定対象とするスコープをすべて回答ください】1. スコープ1
2. スコープ2
3. スコープ3
 | 1. 、②
 |
| ３．対象事業所 | 【上記１．で①または②を選択した場合、算定対象とする事業所の範囲をすべて回答ください】1. 本店（システムセンター等を含む）
2. 支店（支店、出張所等の名称は問わない）
3. 連結子会社・関連会社
 |  |
| ４．課題 | 【GHG算定に係る課題について回答ください（複数選択可）】1. 自機関内で算定の必要性について理解を得ることが難しい
2. 算定の方法論に係る専門知識・人材が不足している
3. 分析対象アセットクラス・セクターの決定が難しい
4. 投融資先の排出量データの収集が難しい
5. 投融資先の財務・活動量データの収集が難しい
6. 算定結果の第三者検証の体制構築が難しい
7. その他（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）
 | 1. 、⑤
 |

【ファイナンスド・エミッション算定に係る取組】

・貴社で取り組まれている投融資ポートフォリオの排出量（ファイナンスド・エミッション）の算定状況について、以下の選択肢よりご回答ください。

|  |
| --- |
| ※該当する数字を右に記入ください |
| 1. ファイナンスド・エミッションを算定している
2. ファイナンスド・エミッションを算定していない
 |  |

【投融資先へのエンゲージメントに係る取組】

・貴社で取り組まれている投融資先への脱炭素に係る対話・エンゲージメント・支援の状況について、以下の選択肢よりご回答ください。

|  |
| --- |
| ※該当する数字を右に記入ください。 |
| １．投資融先への対話・エンゲージメント・支援の状況 | 【取組状況について、該当するもの全ての記入をお願いします】1. ESG関連の投融資目標を設定している
2. 投融資先の持続可能な取組を促進する金融商品を提供している
3. 投融資先のGHG算定を支援している
4. 投融資先への勉強会など啓蒙活動を実施している
5. 脱炭素やESGをテーマにした商談会やマッチングを実施している
6. 地域のステークホルダーと脱炭素に向けた意見交換を行っている
7. 投融資先への持続可能な取組や目標設定に対するコンサルティングを実施している
8. 投融資先の脱炭素の取り組みに関するモニタリングを実施している
9. 必要性は認識しているが取り組めていない
10. 自機関内で話題に上がっていない
11. その他（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）
 | 1. 、⑧
 |
| ２．対話・エンゲージメント・支援における課題 | 【取組における課題について、該当するもの全ての記入をお願いします】1. 自機関内で脱炭素に関するエンゲージメントの必要性が理解されていない
2. 脱炭素を促進する体制や金融商品が整っていない
3. 脱炭素に関する専門性を有する人材等が不足しており、エンゲージメントの方法が整理されていない
4. 投融資先で脱炭素の必要性や理解が高まらない
5. 国や自治体の支援に係る情報が不足している
6. 国や自治体との連携が十分に図られていない
7. その他（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）
 | 1. 、④
 |

以降の項目への回答は任意とします。

【各テーマに対する要望】

・本講義の各テーマについて、特に取り上げて欲しい内容や課題等がありましたらご記載ください。

|  |  |
| --- | --- |
| 第1回：　脱炭素化に向けた動向と投融資先企業の脱炭素経営の必要性を「知る」 | （100字以内）＜例＞脱炭素経営に取り組む具体的なメリットについて知りたい。 |
| 第2回：　投融資先企業のGHG排出量を「測る」 | （100字以内）＜例＞どのデータを使用し、どう算定すればよいか、具体的な算定プロセスを解説してほしい。 |
| 第3回：　投融資先企業にGHGを「削減」してもらう | （100字以内）＜例＞投融資先に対して脱炭素経営の必要性をどのように説明すればよいか、解説してほしい。社内の人材育成を進めるための方策を知りたい。 |

【その他】

・本講義の受講に関して、事務局に考慮して欲しいこと等がございましたらご記載ください。

・また、講義で取り上げて欲しいテーマがございましたらご記載ください。

|  |  |
| --- | --- |
| その他 |  |

以　上